

|     |       |    |   |
|-----|-------|----|---|
| 事務局 | 事務局補佐 | 係長 | 係 |
|     |       |    |   |

## 会 議 ・ 打 合 会 報 告 書

|     |   |
|-----|---|
| 会議名 | 平成 28 年度第 2 回文化のまちづくり委員会                  |
| 日 時 | 平成 29 年 1 月 26 日（木曜）午後 2 時から午後 3 時 50 分まで |
| 場 所 | 豊川市文化会館 小会議室 2                            |
| 出席者 | 委員 6 名、文化政策アドバイザー 1 名<br>事務局 4 名          |
| 欠席者 | 委員 1 名                                    |
| 内 容 | 以下のとおり                                    |

事務局：皆さんそろいましたので、ただ今から、「平成 28 年度第 2 回豊川市文化のまちづくり委員会」を始めさせていただきます。

課長：お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。本日は文化振興プランの策定から関わっていただいているアドバイザーの林先生にもお越しいただきました。

（アドバイザー（以下アド）あいさつ）

事務局：本日は、様々な議題がありますので、委員の皆様にはその都度ご検討をお願いいたします。それでは、委員長に進行をお願いします。

委員長：今日はまず(1)平成 29 年度文化振興事業について、審議したいと思います。次に(2)平成 28 年度今後のまちづくり委員会事業について、(3)とよかわ文化芸術創造プランの見直しについて協議します。では(1)について、事務局から説明をお願いします。

課長：では、来年度文化ホールに公演事業についてまず簡単に説明をさせていただきます。

（資料 1 の説明）

文化のまちづくり委員会事業として 2 公演をとよかわ舞台公演実行委員会の企画運営で行いたいと考えています。

委員長：この中で、学校などとコラボした動きをする事業はありますか？

事務局：学校などで行う事業については、普及事業で説明させていただきます。

委員長：では、そのときにまたご説明ください。それでは、このことについて他にご意見等ございますか？

（特になし）

特にないようですので、次の 29 年度の展示事業について説明をお願いします。

主幹：29 年度の展示事業については、資料 2 のとおりです。

（資料 2 の説明）

委員長：ありがとうございます。入場料について、何か規制はあるんですか？

主幹：博物館法では、原則的に無料にするようにという規定があります。桜ヶ丘ミュージアムでは、美術の企画展は毎年有料のものを 1 回、歴史は今までで 2 回だけ有料展を行ったことがあります。来年度については、こち亀展のみ有料の予定です。

委員長：何かご意見がありましたら、お願いします。

（特になし）

特にないようですので、続きまして、普及事業について説明をお願いします。

課長：こちら公演事業・展示事業と分かれていますので、先に公演事業について説明させていただきます。資料 3 をご覧ください。

（資料 3 の説明）

主幹：続いて、ミュージアムについてですが、キッズワークショップについては、資料 4 のとおりです。

（資料 4 の説明）

また、学校へのアウトリーチも随時行う予定です。

委員長：資料4の10番、ちいさな土人形づくりも企画展に伴ったものですね。

主幹：はい。これは陶芸に近い形になるかと思えます。

委員長：ありがとうございました。では、何かご意見はありますか。

委員：キッズワークショップということは、キッズしかだめなんではないでしょうか？大人も興味があるものが多いので、やってみたい人もいるかと思うのですが。

主幹：実際には、保護者の方や、単独でも定員に余裕があればやっていただいています。ただ、子ども優先にはなりません。

委員：大人向けにはやらないですか？

主幹：大人向けでうたったものはないです。

委員：すごく面白そうなので、大人でもできればやってほしいです。

委員長：豊川の事業は盛りだくさんで、緻密に組んであると思います。では、他にご意見がなければ、引き続き29年度の文化のまちづくり事業について事務局から説明をお願いします。

課長：予算内示がでまして、予算の内訳については資料5のとおりです。まちづくり委員会の自主事業については、先ほど説明したとおり、2本行う予定です。演劇フェスティバルの補助については、今まで市から補助金を出していましたが、28年度をもって最後になりましたので、まちづくり委員会からの補助を少し増額しています。

委員長：ありがとうございます。これは以前にも議題に上ったと思うのですが、優秀文化事業と自費出版助成の基準が、今明確でない状況です。話題にはのぼりますが、毎年固定になってしまっています。トゥインクルは以前助成をやめるという話はなかったでしたか？

課長：一度減額したことはあります。

委員長：元々文化のまちづくり委員会は市の文化振興のために配分するもので、事業の中で見てみると、優秀文化事業がメインの事業ではないかとも思います。

委員：委員の方の推薦や市で拾えない地域の情報を集めて、配布できるお金だと思います。

事務局：優秀事業は多少更新してはいるのですが。

委員長：最長5年などの目安がないと、なかなか難しい。公募して審査するというのもすぐわからないかとも思います。臨機応変に、型にはまらない使い方ができるようになればよいです。

委員：委員の意見を聞きながらざくばらんに使えるようなお金であればよいと思います。本の助成も、これはどうなのだろうというものも今までの中にはあって、長年研究をまとめたものではあるけれど、文化なのか、科学なのかという線引きが難しいものとか。常識の範囲内でできるように。

委員長：あまりがんじがらめにしてしまうと、それが足かせになってしまう。けれど、流用でゆるゆるになってしまうのもいけない。市民がそういう助成制度があることを知らないかもしれないので、年間予定表などに制度のことなども載せてはどうでしょうか。問合せができるようにしておく必要がある。

委員：助成を受けている団体は、何年もらっているのですか。何年もらっていると、その助成を見込んで予算を立てているだろうから、急に打ち切りにするのは困ると思います。助成する時点で期限や範囲を決めておかないと。

委員：自由に使えるということで、助成などもこの委員会で決めるということですが、どこで最終的に決まるのですか？

事務局：まちづくり委員会の予算が決まるのは、予算内示後で、事務局から内訳を提案します。今度これはどうか、というものがあれば流用対応で検討します。

委員：以前は委員会がもう少し回数あったように思います。トゥインクルについては、合併前小坂井町から補助が出ていて、合併時にその補助金がなくなるということを知って検討した結果、補助を出すことになったはずですが。

事務局：委員会はここ数年は3回が定例となっています。

委員長：現実的に、実際支払う段階で委員が集まるわけではない。大枠で助成金を決めておい

て、その枠の中で支出する際に委員長他が合議してきめます。意図されないところで使うのは気をつけないといけません。特定の団体に払い続けるのは、やはり問題があるとおもうので、ガチガチではないけれど、ある程度要項を決めた方がよいと思います。

委員 : 今回 2 回目の出席なのですが、ここに来て今どのように議題を協議すればよいかわからないです。事前にどのようなことを考えておけばよいかかわからないと、どうすればよいかかわからない。

委員長 : これは委員の問題でもありますね。毎年例年通りでとなくなってしまっているのです。

委員 : 予算もすでに決まっています。どうやって有効活用していくのかということでしょうか。

課長 : 内示で予算が決まって、どういう活動をしていくのかは、委員の方からご意見があれば反映していきたいと考えています。こういった活動に目を向けたり、というものを提案してもらったり、助成については、来年、再来年に向けてどうしていくのかを協議できればと思います。

委員長 : 釈然としないところはあるかとは思いますが、とりあえず来年度の予算についてはこんな感じでもよろしいでしょうか。また公演事業、普及事業についてはご了承いただけますか。

(委員、了承。)

委員 : 来年の予算はこうなるということで、今後なんらかの企画・計画を立てるというプランを立てて、次年度以降市の予算に要望することは可能ですか。

課長 : 夏から秋にかけて予算要求の時期がありますので、そこであげることは可能です。年度最初の委員会などで提案していただければと思います。

委員 : まちづくり委員会の予算については、実質的な内容とどこに必要なのかを検証していく必要もあるかと思っています。

委員長 : では、29 年度の事業についてはこのとおりで、いったんしめたいと思います。つづいて、(2)平成 28 年度今後のまちづくり委員会事業について、事務局から説明をお願いします。

課長 : 今年度まちづくり委員会の事業について、現在予算に余裕が出ています。これは、自主事業のチケットが皆さんのご協力もあって予想以上に販売できたことと、予定していた情報発信事業が当年度中に着手できないためです。年度末に余剰分は市へ返納することになっています。今までは、人材育成のために他市町村の事業や会館の視察研修を行ったり、事業に必要な消耗品の購入に充てさせていただいたことがあります。余裕が出た分について有効活用させていただきたく、提案します。

まず、3 月に文化会館で初めてロビーコンサートを開催することもあり、他のお届けコンサートの際にも使用できる移動音響や、ボランティアが使用するスタッフジャンパーの購入。また、今年度の美術品展示替えについて、予算より少し値段があがってしまうため、その増額。ミュージアムのレンタサイクルを、前回少し提案していただいたように整備するため、今までの簡易修繕ではなく、業者に修理をお願いしようと考えています。そして、先ほどもお話しした視察研修を今年度も行いたいと考えています。このことについてご討議いただきたいです。

委員長 : 大前提として、予算を消化するためではなく、行っていただきたい。予算に余裕が出たのは、収入増のためなので、同じ自主事業の枠として視察研修はありだと思えます。移動音響は購入するとどこのものになるのですか。

課長 : まちづくり委員会の備品になります。

委員 : ボランティアがたくさんいらっしゃると思うので、ボランティアの育成に力を注ぐことは可能ですか。地域にそれぞれボランティアがいるので、集まってもらって実情を知っている人々に話をしてもらい、それを共有してさらに向上させていく。ボランティアのレベルを上げる仕組みを組み立てる。文化を浸透させる人は、そこに関わっている人。育成をしながら仕組みを組み立てては。

課長 : 以前から講師を招いてボランティア研修などは行っています。

委員長：とよかわ舞台公演実行委員会も元々はボランティアが集まってできたもの。これが発展するとセンター機能に繋がると考えて、まちづくり委員会でバックアップしている。人の交流というのは大事ですね。

課長：現在は計画的な研修の開催はできていませんが、視察研修などで同等のことを行っていきたいとは考えています。

委員：とよかわ舞台公演実行委員会は、ここにいらっしゃる林先生に2年間ボランティア講習をしてもらってできた。期間を決めての募集は今ではないが、流動的に活動している。ボランティアの勉強も毎年計画的にできればよいが、なかなか今はできていない。けれど、公演に関わっていく中でみんな自主的に勉強して育っています。

委員長：自主事業で余裕の出たお金なので、やはりそこに充当しないととは思いますが。情報発信事業は来年度も予算計上していますが、できますか？

課長：来年度の体制もあるので、必ずとはなかなかいいにくいです。

委員長：情報発信事業は大きく予算計上せずに、それこそ流用対応で行ってもよいのでは。今年度の事業については、自主事業の余剰分ということで、視察研修はいいと思います。以前の視察に参加させていただいたが、少ない予算の中で素晴らしい事業をたくさん行っているところもあり、それを参考にするのはとても勉強になります。

課長：視察先は知多の国際音楽祭や、静岡のSPACなど検討中です。

委員長：基本的には市にそのまま返納せずに、有効活用ということでよろしいでしょうか。市の文化事業のよみづらい部分を補填する意味もあると思います。

では、続いて(3)とよかわ文化創造プランの見直しについて、事務局から説明をお願いします。

主幹：はい。これについては協議というより、今後の予定としてお伝えします。プラン作成から5年が経過し、プランには5年経過後見直しすることが明記されています。そのため、今年度をもって見直しする予定で進めています。骨子の部分については変更しなくてもよいかと思いますが、方法論に関して、現状を見据えた上で見直ししていきます。案ができた段階で事前を送付しますので、次の委員会で検討していただければと思います。

委員長：その案は事務局で作成するのですか。

主幹：そのとおりです。

委員長：では、何かご意見があればお願いします。

とよかわ舞台公演実行委員会でも意見をもらってはどうか。

主幹：そうですね。外部からも加えて意見を求める予定です。

委員長：センター機能のこともありますが、見直しつつそちらを進めるのは難しいですかね。

課長：センター機能のスケジュールについても同様に概ねのスケジュールを作成しています。

委員長：では、(3)についてはこのくらいで。その他何かご意見があればお願いします。

課長：今年度の自主事業についてもまだ5公演ありますので、応援をよろしくお願いいたします。

アド：今後の事業について、ご提案ですが。事業の資料に対象世代の記載があってもいいかと思いますが。子ども向けや鉄板世代向けなどうまく割り振って計画されていることがわかるようにしてもいいかと。また、土日の開催がほとんどですが、今後鉄板になりうる団塊世代の高齢化などもふまえて、平日開催のイベントも開発していく必要があるかと思いますが。ミュージアムで開催する企画展でも特に豊川のアイデンティティに関わるものについては、市外の人へのアピールをSNS(Instagram)などで行っていてもいいかと思いますが。アウトリーチは学校が主になっているので、他の施設、老人福祉施設や障がい者施設、病院などに広げていってはどうかでしょう。大ホール事業は結果的にですが1本なので、せっかく体制も変わったこともあり、増やしていってはと思いました。

委員長：ありがとうございます。それでは、以上で終了とします。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。